

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4077700096
法人名	社会福祉法人 ふたば会
事業所名	グループホーム ふたば
所在地 (電話番号)	福岡県三井郡大刀洗町高樋1245-1 (電話) 0942-77-0877
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年10月1日

## 【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物形態	<u>併設</u> 単独	<u>新築</u> 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有( 円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	160 円	昼食	310 円
	夕食	310 円	おやつ	170 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成21年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	58 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	神代病院、門司歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに小高い花立山があり、ホームは田んぼや畑が広大にある田園地帯に位置する。建物の1階部分にはデイサービスがあり、ホームは2階部分にある。母体の特別養護老人ホームとは渡り廊下でつながっており、雨の日の散歩道になっている。そこからは四季折々の景色が眺められる。職員は利用者のできることをしっかりと捉え、得意な編み物をする人、一緒に調理や片付けをしたりする人など、利用者の思い思いの行動をあたたく見守り、利用者がその人らしく暮らしていけるように支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度は改善課題はなかった。前々年度に地域との交流がなかった点があり、推進会議で訴えてきた。また、独自の通信でも訴え、2~3年かかり交流ができています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受け、外から見てもらうことによって自分たちの仕事を見直している。自分たちが気付かないことを知ることで意識の向上につながり、利用者の援助の向上につながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度開催している。利用者状況やサービスの実際について報告している。最近、区長や老人会長から地域の要望として、地域住民の方の緊急避難場所が遠いので、施設を一時避難場所として提供してほしいとの依頼があった。そこで、「地域住民の方々の状況が落ち着いてから移動する」「救援物資が届くまでの経過」について話し合われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	苦情箱を設置し、苦情受付担当を設けている。訪問時には意見・要望など言ってもらっている。最近では新型インフルエンザの対応についての質問などが多い。日常的に意見、苦情など言いやすい環境を作っている。問題があれば、即対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りは母体の特別養護老人ホームと合同で開催しており、地域から100人位の参加がある。また、保育園、小学校と交流を行い、クリスマス会、お菓子作り等している。2ヶ月に1回地域の方と一緒にお宮の掃除をしている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域福祉に貢献し、支え合う仲間である」ことを掲げている。当事業所が地域の中で違和感なく溶け込んで、地域での生活が広がっていくように取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やスタッフルームに掲示され、職員は理念を基に行動している。スタッフ会議では理念の共有を図り、日々の生活に反映している。今後は唱和することも取り組んでいきたいと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りは母体の特別養護老人ホームと合同で開催しており、地域から100人位の参加がある。また、保育園、小学校と交流を行い、クリスマス会、お菓子作り等している。2ヶ月に1回地域の方と一緒にお宮の掃除をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受け、外から見ってもらうことによって自分たちの仕事を見直している。自分たちが気付かないことを知ることで意識の向上につながり、利用者の援助の向上につながっている。改善点にもしっかり取り組んできている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。利用者状況やサービスの実際について報告している。最近、区長や老人会長から地域の要望として、地域住民の方の緊急避難場所が遠いので、施設を一時避難場所として提供してほしいとの依頼があった。そこで、「地域住民の方々の状況が落ち着いてから移動する」「救援物資が届くまでの経過」について話し合われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口に行く機会が多い。研修の誘いを受けたり、ホームの空き情報を尋ねられる事もある。双方ともにアドバイスをしたり相談したりしている。良い関係を構築できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修と一緒に権利擁護に関する勉強会があることが多い。研修に出かけたら参加していない職員に伝えている。成年後見制度の利用者はいないが、地域福祉権利擁護を利用されている方はいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事務所で小口の現金の預かりをしているので月に一度金銭管理報告とともに「ふたば通信」を発行し、日常動作の報告、受診、散髪代、髪染代、夜の生活状況など伝えている。職員の異動など今のところはない。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し、苦情受付担当を設けている。訪問時に意見・要望など言ってもらっている。最近は新型インフルエンザの対応についての質問などが多い。日常的に意見、苦情など言いやすい環境を作っている。問題があれば、即対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動は出来るだけ避け、利用者へのなじみの関係が保てるように努力している。また、過去1年間は退職した職員はいない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては年齢、性別を条件にしていない。資格取得については出来るだけ取るように勧めており、休暇について配慮している。また、休みについてはシフト制できちんと取れており、個人的用件でも希望すれば調整によって休むことができる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員研修で人権、啓発に向け勉強会を行っている。また、職員が常に人権や人格を意識してケアするように、人権に関するポスターを掲示している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人年間計画に沿って内部研修を毎月行っている。内容は倫理、感染、認知症など研修内容が綿密に立てられている。外部研修には可能な限り、職員が交代で参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小郡、三井地区の介護保険研修会に参加したり、地域のグループホームとの交流を行い、サービスの向上に努めている。管理者は、今後、もっと研鑽の場が欲しいと思っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には家庭や病院へ出向き、本人・家族及び病院の関係者から情報収集を行っている。また、利用者顔と顔を合わせることでホーム職員に馴染んでもらい、安心して入居できるようにも努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、編み物をしたり、洗濯物をたたんだり、畑で野菜を作ったり、自分の出来ることをしていただき、共に共感し、家族同様に生活している。また、職員が教えてもらうこともあり、教えることに利用者が喜びを感じている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が本当に困っていること、したいこと、希望など、日々の係わりの中で表情を観察したり、声をかけたりして利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の中で本人の状態を観察し、本人、家族の希望を取り入れ、医師の意見も取り入れた上で職員間で話し合い、介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3～6ヶ月で見直しをしている。入退院や日常生活の中での変化に応じて介護計画の見直しをして、必要があれば、変更している。骨折などの場合、リハビリ担当の医師とも話し合い、現状に見合った介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて通院の送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。昔からのなじみの美容院への外出支援を行ったり、お盆やお正月の帰宅の際、車椅子対応の利用者には送迎も行っており、家族に大変喜ばれている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある利用者に対しては本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医と連携を取りながら支援している。また、かかりつけ医のない利用者に対しては、ホームの協力医をかかりつけ医としている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族と終末期の方針を話し合っている。実際の終末時には面会時等でその都度家族と話し合い、最終的には家族・医師・ホーム担当者において方向性を決めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴は個室対応で一人ずつである。排泄に関してもプライバシーの保護を厳守している。個人の記録は鍵付き書庫に保管し、ケアの記録のミスプリントや個人情報と思われるものは、すべてシュレッダーにかけて取り扱いに注意を払っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前、過去の生活歴を聴き取りたり、日常会話の中から趣味や特技などの情報を得たりして、ホームのなかでもその人ができるような環境を作っている。本が読みたいという利用者には、思い・希望を大切に、散歩がてら一緒に図書館に行って本を借りたりしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は自分に出来る事を職員と一緒にして食事の準備や後片付けなど行っている。調理の好きな方、盛り付けや配膳、食器洗いなど日課にしている方もおり、その人らしく生活されている。和やかな雰囲気のなかで食事をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き毎日入浴を実施している。入浴拒否をされる方に対しては、トイレの後に自然な形で誘導している。入浴後は「気持ちよかった」と喜ばれる。夏、冬で若干、湯温を変えたり、入浴剤を入れたり、季節によって菖蒲湯、ゆず湯等、楽しみになるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの花見(桜、藤、菖蒲、ひまわり、コスモス等)を恒例行事として行い、利用者の楽しみとなっている。外出することで気晴らしになっている。日常的には食事の準備、後片付け、畑に花や野菜を植えたり、収穫するなど楽しんで生活できるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には畑に花を見に行ったり、近くを散歩したり、時にはドライブ、買い物、図書館に出かける等、支援している。また、不穏な状況の時や希望時には本人が納得されるように外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。利用者が自由に出入りできるようにしているため、玄関、通用口にはピンポンマットやアラームを使用して、安全に生活が出来るように見守っている。見守り職員は自分が離れる時は、他の職員に声かけをしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	敷地内に母体となる特別養護老人ホームがあり、合同で避難訓練を年4回実施している。特に夜間は職員が一人体制になるため、法人宿直者及び夜勤者、近隣住民、地域消防団の協力が得られるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量のチェックを行っている。利用者の嚥下、咀嚼の状態に合わせた食事を提供しているが、基本的に同じ物を提供し、必要時にはゼリーや代替え品を使用することもある。体重測定を行い、健康面の把握をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、食堂、廊下など至る所に季節の花や観葉植物が置かれ、屋内でも季節を感じられるように配慮されている。利用者は大きな日めくりで毎日の日にちを確認されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には入居前から使用していた家具や調度品が持ち込まれ、馴染みの物が置かれている。家族の写真や入居後の写真が飾られており、安心して居心地よく暮せるように配慮されている。</p>		